

ばれっと

2009
7月
No.119

■ すぽっとらいと 「Anego」

あらゆるセクシャリティ（性的指向）の人が
尊重される未来へ

■ アラカルト

サポセン開館10周年記念特集③

- サポセン広場
- お知らせ
- イベント紹介
- 今月のサポ本

6/30で開館
10周年！

10周年記念サポセンアルバム

Album No.4



本町ミステリーツアー（2005年11月12、13日）

地域と一緒に作る、サポセンのお祭り 「カラフルフェスタ」

サポセンをより多くの市民に知ってもらうために、団体の活動発表やワークショップなどを行っていた「カラフルフェスタ」。

周辺の商店街からもご協力いただき、サポセンだけではなく、街の情報や歴史を伝えるツアーもありました。隠れた情報を知り、移転前にサポセンがあった、本町のマニアになった方もいました。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

あらゆるセクシャリティ（性的指向）の人が尊重される未来へ

Anego

Anegoは、性的少数者やそれ以外のすべての人が生きやすい社会をつくることを目指して活動しているグループです。

「LGBT（注）によるLGBTのため」ではなく、「LGBT、OK！」という人による「LGBT、OK！」のために日々奮闘している代表の宮城ゾン太さんと事務局の太田ふとしさんにお話を伺いました。

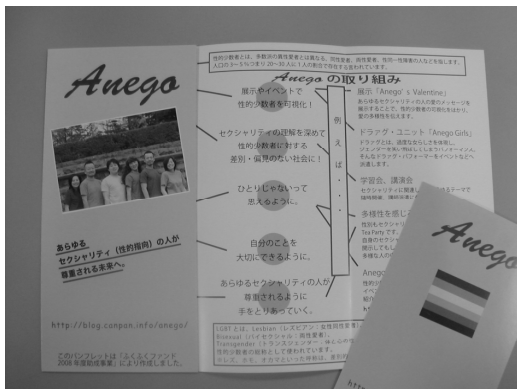
注：Lesbian（女性同性愛者）、Gay（男性同性愛者）、Bisexual（両性愛者）、Transgender（体と心の性が不一致な人）の頭文字で、性的少数者の総称として使われている。

● 立ち上げのきっかけと想い

Anegoの結成は2007年4月。元大阪府議会議員で、レズビアンであることをカミングアウト（公表）した尾辻かな子さんの講演を、東京に聴きに行こうということからはじまりました。しかし、どうせなら仙台で講演会を開催しようとの代表のゾン太さんの発案で、尾辻さんにアプローチしたところ、快く承諾していただき、2007年5月に仙台で講演会が開催されました。

講演会には30名の方が参加し、その中にはLGBTの人たちばかりでなく、Anegoのメンバーといままで接点のなかった人たちも多く集まってくれました。これには、ゾン太さんも大変驚いたそうです。最初は講演会のためだけにと考えていたのですが、せっかくだから今後も、ここに集った人たちが顔を合わせることができる場が欲しいとの想いが強くなりました。そして、7月に情報交換会を開催し、以後も継続的に活動していくことになったのです。

現在、運営にたずさわるメンバーは10人です。



▲ Anegoのパンフレットとポストカード

● 河北新報に紹介記事

その後、「Anego Tea Party」と題した、性別もセクシャリティも関係なく、誰でも参加できるサロンの開催や、イベントにも積極的に参加しています。例えば、札幌・東京・大阪などで毎年行われているLGBTのパレードに参加し、可視化と共生を提案しています。

このようなAnegoの活動が、2008年12月27日の河北新報夕刊に、大々的に紹介されました。どんな広報よりも効果も大きく、その日のブログへのアクセス数は普段の3倍にもなったそうです。

「性的少数者にとって、自分を理解してくれる人が周りにいるというだけで、強い味方を得たように感じ元気が出ます」とゾン太さんは話していました。

● 映画館とのタイアップ

また、仙台市内にある映画館チネ・ラヴィータと仙台フォーラムの2館は、LGBTをテーマにした映画をときどき上映しています。映画好きの代表が、飛び込みでチネ・ラヴィータに「チラシを置いてください」とお願いにいったところ、何と快諾していただき、姉妹店の仙台フォーラムにも置いていただけることになりました。しかも「Anegoの皆さんの申し出は、映画館としてもとてもうれしかった」という内容のお言葉までいただいたそうです。

その後も、チラシやパンフレットを置くだけでなく、2館が発行する上映ガイド「フォーラム・ラヴィ」の中で、セクシャルマイノリティなどをテーマにした映画には、一目で分かるように“レインボーフラッグ”（性的少数者の象徴）のアイコン表示をしてもらえるようになりました。

また、レズビアンがテーマの映画「トップレス」が上映された時には、チネ・ラヴィータにて

団体紹介



▲ 教育者向け講演会の様子

Anegoのメンバーによるトークショーが開催されました。

映画館にパンフレットを置けることが、小さな団体にとっては、とても大きなピーアールになります。アイコンの表示やトークショーの開催など、チネ・ラヴィータと仙台フォーラムのみなさんには、本当に感謝しているそうです。

● 今後の運営

運営は、会費と寄付やパフォーマー (Anego Girls) の派遣料などで賄っています。また、みやぎNPO夢ファンドの助成金を受けることができ、教育者向け講演会への助成や、ふくふくファンドでは新しいパンフレットとポストカードをフルカラーで作成する事が出来ました。

さらに今年は、グッズ販売 (Tシャツ、手鏡、キーホルダーなど) も計画しています。また、Anegoのパンフレットを置いていただける所を募集中との事です。

LGBTをテレビで見かける機会も増えましたが、東京などの大都会の話のように思われがちなので、「東北にもいますと可視化していくことも大事です」と太田さんが話していました。

最後に、悩んでいないで、どしどしホームページにアクセスして下さいと力説しておりました。



取材を終えて…

性的少数者は20~30人に一人の割合で存在するというお話を伺い、自分が想像していた以上に割合が高いことを知り、大変驚きました。性的少数者への理解を社会へ訴えていく事も大切ですが、相談を受ける側の教育関係者や専門家にも、正しい情報を届ける事も大切だと話されていたことは、まったくその通りだと感じました。

(担当 伊藤 香)

Anego (アネゴ)

Anti-Normalistic Educational Gender-free Organizationの略。「普通」という名のもとに少数者を排除することに反対する、教育的で、性別にこだわらない組織という意味の造語。あらゆるセクシャリティ (性的指向) の人が尊重される社会を目指し、活動している。

■ 設立 2007年4月

■ 活動内容

・セクシャリティへの理解を深める活動

セクシャリティに関連した、あらゆるテーマで、学習会や講演会の開催。講師派遣にも応じている。

・セクシャリティ・フリー (制限無) で集まれる場の提供

性別もセクシャリティも関係なく、誰でも参加できる「Anego Tea Party」を定期的に開催。

・セクシャリティについての悩みを相談できる機会の提供

・自分を大切に作る心の育成

「Anego's Valentine」では、あらゆるセクシャリティの人の愛のメッセージの展示を行っている。

・あらゆるセクシャリティを尊重する活動の応援

女装してパフォーマンスを行う「Anego Girls」の派遣。過剰な女性らしさを演出し、「らしさ」にこだわりすぎることの滑稽さをアピールします。

その他にも、誕生から2年目を迎えた、2009年4月4日 (LGBTの節句) には、「Anego 2nd Anniversary Party」を開催しました。2008年度の活動報告、協力者からのビデオレター、Anego Girlsのショータイムが行われました。クライマックスは手づくりの人前での同性結婚式です。結婚証明書に署名し、指輪を交換する儀式を参加者が温かく祝福しました。

■ 連絡先

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3

仙台市市民活動サポートセンター LC NO. 26

FAX 022-268-4042 [LC NO. 26]

メール anegosendai@yahoo.co.jp

サポセンの ココが使える!

レターケース、ロッカーに始まり、貸室、展示スペース、市民活動シ

アターとサポセンをフル活用しています。

サポセンを使う最大の理由は、「人権にも関わることなので、施設としてマイノリティに理解があり、雰囲気もよく、安心感があることと、立地条件が大変良く、皆さんが集まりやすいことです」と事務局の太田さんは話してくれました。

サポセン 10周年記念特集③

◆サポセンは、おかげさまで2009年6月に10周年を迎えました。
このコーナーでは、これまでのサポセンの軌跡をダイジェストで、振り返ります。詳しい内容については、10周年記念誌に掲載する予定です。

5月号よりスタートした、サポセン10周年記念特集。今回は、オープンから3年が経過し、6年目頃までにサポセンに関わってきた関係者と利用者の方に、当時のお話を伺いました。

4年目に入り、それまでサポセン内に常駐していた仙台市の職員が市役所に戻り、NPOだけの管理運営体制となりました。

仙台市の担当者

■2003年4月～2006年3月まで仙台市民活動支援室長を務めた 佐々木 伸さん
(現 仙台市社会福祉協議会 事務局次長)

—オープンから4年目、市役所に戻ってから取り組んだことは何ですか？

オープンからの3年間で、せんだい・みやぎNPOセンターは施設管理のノウハウを身につけ、行政はNPOの行動原理を理解し、それぞれの特性を生かすことで相乗効果が得られました。また、サポセンを利用している皆さんの活動を通して「市民活動」のイメージも次第に出来あがり、拠点としてのサポセンも認知されてきました。

市民協働の施設としてスタートしたサポセンでしたが、サポセンだけで協働が促進されるわけではありません。協働のパートナーとしては、行政の立場から協働を進めるといった役割があります。しかし、当時は協働について誤解があったり、職員が協働の基礎や実施のための情報を理解することはなかなか難しいという現実もありました。そこで、職員向けに新たに協働の手引書を作るところから始めることにしたのです。

作成にあたっては、幅広い組織や年齢構成の職員16名による協働推進ワーキンググループを組織し、NPOの皆さんと一緒に、10回以上ワークショップを実施しながら進めました。多くの職員の共感を得るためには、何がわかって、何がわからないのかを確認しながら手引きを作り上げる必要があったのです。この手引書は「仙台協働本(せんだいこらぼん)」というタイトルで協働の理解から実践、評価までをまとめています。そのプロセスを通じて、協働への理解は確実に深まりましたし、協働の発想をもって事業を企画する職員が増えていきました。

また、協働事業の進め方や協働相手の選定など

具体的な事例の相談に対応するため「こらぼん協働相談所」も開設しました。第三者が客観的な立場から整理することで、提案を実現可能なものとし、協働を推進していくことが狙いでした。

こうした中で、行政とNPOがお互いに持っている資源を持ち寄って、地域課題を解決しているすぐれた事業がいくつも実施されています。せんだい・みやぎNPOセンターからの提案を受けてスタートした「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(骨プロ)*」もその一つです。



*仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(骨プロ)
市民による情報の受発信を支援し、市民活動に関する情報を多くの市民に届けるため、仙台市内の公共施設が協力して行うプロジェクト。2009年6月時点では10施設が参加している。
サポセンが窓口となって受け付けた市民活動団体の情報が、「骨プロ専用ラック」に配架される。

—これからのサポセンに期待することは何ですか？

「骨プロ」では仙台市内の公共施設が連携して、情報を共有するしくみをつくりました。次はサポセンから地域にむけて課題解決の手法を共有していけないかと思っています。

地域のコミュニティ団体や市民活動団体にも課題があります。みんなで解決するしくみ、参加型の課題解決手法というのは、サポセンやNPOがすでに実践していることです。気づきから課題解決までのプロセス、民主的な参加型の課題解決手法が、どんどん地域にも伝わっていくといいなと思っています。

サポセンスタッフ

■2002年4月～2005年3月まで初代センター長を務めた 青木 ユカリさん
(前せんだい・みやぎNPOセンター 事務局次長)

ー4年目から、NPOだけでの管理運営となりましたが、スムーズに移行できましたか？

私たちは最初の3年間で、施設管理についての経験を積み、一つひとつの対応を通じて記録をつみあげていくことで、ノウハウを身につけていきました。市と協議しながら進めてきたことが、現場で判断できるようになってきたのです。

また、記録をとり情報共有するしくみも定着していましたし、市の担当者がサポセンから離れても、定例ミーティングなどで補完できる体制は整っていました。

ーサポセンからの市民活動の広がりや、どのように感じましたか？

サポセンが出来て、市民活動団体の動きが見えるようになり、団体の活動もまた活発になってきました。市民活動の情報が集積されたことによって、そこにかかわる人が増え、サポセンからの波及効果がひろがっていった時期だったと思います。

2001年から開催している「カラフルフェスタ」では、市民活動団体の皆さんと協力しながら、さまざまなプログラムを実施し、市民活動の情報を発信することが出来ました。そして、多くの皆さんにご来場いただき、市民活動に触れていただくことができました。

また、せんだい・みやぎNPOセンターが運営を担ったことの成果もじわじわと表れてきていました。中間支援組織として、多分野にまたがる情報を横断的に持っていたことがプラスに作用し、サポセンで全てを解決するのではなく、より専門性のあるNPOにつなぐということが出来たのです。それは、施設同士の連携にもつながっていきました。

この頃から、情報発信の支援を強化していくための提案を行政にも行い、それが具体的には「骨プロ」という形での実施となりました。



03年カラフルフェスタボランティア大相談会の様子

サポセン利用者

■真山 正太さん
(アートユニット創造雑技団 主宰)

ーオープン当初からサポセンを利用されていますが、真山さんにとって、サポセンはどんな存在ですか？

勤務先が移転前のサポセンに近かったことや、アート分野で市民活動を行っていたこともあり、オープンしてからは交流サロンやロッカー、共同事務室の事務用ブースに入居するなど、活動の拠点として利用していました。

私にとってのサポセンは、単なる場ではなく人です。そこで活動する人々やそこに関わっている人々です。ばらばらにただいるのではなく、話し合ったり、出会える位置関係にすることがとても大切でした。さまざまな可能性が生まれる場でもあったのです。

ー事務用ブースの使い心地はいかがでしたか？

事務用ブースに入居するにあたっては、始めは束縛されるような感じがしていました。でも、そんなことは全然無かったですね。事務用ブースが設置された共同事務室は、パーテーションで区切られただけのオープンな状況だったこともあり、他の入居団体の活動の様子を知ることになりました。また、私たちの活動を知っていただく機会にもなり、そこから同じ入居団体からの依頼で、団体紹介のチラシを作るようになりました。

ーこれからのサポセンに望むことは何ですか？

移転前のサポセンでは、デザイン学校の生徒と一緒に外の植木や、入口、交流サロンの机の上などを装飾しました。建物も古かったし機能重視でいかにも無機質だったので、学生たちには入りにくいイメージがあったようです。

サポセンにはもっと多くの人に来てもらいたいと思っています。極端な言い方をすれば、NPOについて知らない人や市民活動を知らない人にこそ、是非来て欲しいのです。そのためには、様々な制約もあるでしょうけど、もう少し無駄や遊び心が必要かなと思っています。

サポセンは市民活動の拠点としてすっかり定着し、多くの人に利用いただく施設となりました。また、それぞれの団体の活動を通じて、市民活動がサポセンから、どんどん外へひろがっていった時期でもありました。

そんなサポセンが、建物の老朽化に伴い移転を決定したのは、6年目を迎えたばかりの2005年8月のことでした。

(担当 小松 州子)

サポセン広場

利用者みなさまから寄せられた声にお答えする、サポセン広場。
今回は、昨年11月～5月の間に利用票の感想欄に寄せられた声をご紹介します。

冷房が入らず、部屋がとても暑く、窓もないためどうすることも出来ませんでした。

Answer

サポセンの空調は、各階ごとの一括管理になっており、その管理は1階の事務局で操作をしています。また冷暖房も、春と秋に大掛かりな切換え作業が必要になります。

5月半ばに切り替え作業を行い、現在は冷房の設定になっています。「暑い」「寒い」等の問題があった場合、内線電話で事務局までご連絡ください。

ポータブルアンプをお借りしましたが、マイクが1本しか使えませんでした。講演会なので、できればマイクを2本使用できるようにして欲しいです。

Answer

ポータブルアンプでマイクが2本使用できるようになりました！従来のワイヤレスマイクに有線マイクを一本追加いたしましたので、講演会の講師＋司会用や会場からの質疑用など利用の幅が広がりましたのでご活用ください。

また、4階の研修室5に100インチの常設スクリーンを設置いたしました。備品面でもどんどん使いやすい施設にしていきますのでご期待下さい！

いつも快適に使わせていただいております。但し難を言えば自販機が無いことです。設置を強く要望します。

Answer

環境に配慮した公共施設として、サポセン全体でゴミの3R（リユース、リデュース、リサイクル）に取り組んでいます。

サポセンから出るゴミを極力少なくするために、自動販売機の設置は行っていません。環境保護のためにご理解とご協力をお願いします。

お知らせ ●○●

ロッカー・レターケース 使用団体募集！！

ボランティアや市民活動団体など、自発的で公益的な活動を行う団体が利用できます。

ロッカーは活動に必要な荷物の収納場所として、レターケースは団体宛の郵便物・FAXの受け取り先としてお使いいただけます。

- 使用期間：ロッカー 2009年9月1日～2010年8月30日
レターケース 2009年9月1日～2010年8月31日
- 募集数・使用料：ロッカー（大） 10個・1,200円／月
ロッカー（中） 28個・800円／月
ロッカー（小） 80個・400円／月
レターケース 168個・無料
- 申込受付期間：7月6日（月）～7月25日（土）
9：00～21：00（日曜日は17：00まで）
- 申込方法：サポートセンターで配布する申込用紙で申込
※ホームページから申込書をダウンロードできます。

■問い合わせ・申し込み先
仙台市市民活動サポートセンター
TEL 212-3010 FAX 268-4042



7月の イベント紹介

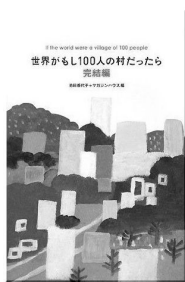
■サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
 ■原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
 ■毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

●貸室での催し物

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
7月1日(水) 15日(水) 14:00~18:00	女性の為のカウンセリングルームです。 心の声に耳を傾けてみませんか？ まずはご連絡を… (面接時間50分間)	研修室1	初回のみ無料 2回目~1,000円 (事前申込必要)	ここの会 携帯:090-9635-6708 (栗野)
7月3日(金) 18:30~21:00	「言論弾圧」に屈しない元・都立高校長 を支援する仙台集会	セミナー ホール	無料 (事前申込不要)	教育民主化進会 Tel:022-233-4591 (小野寺哲)
7月4日(土) 13:00~15:00	子どもの非行や荒れに親としてどう向き 合えばいいのか？一人で悩まず一緒に 分かち合いませんか？	研修室1	500円 (事前申込不要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 携帯:080-1838-7464 (星野はるか)
7月12日(日) 13:30~15:30	自分でできる！こころのセルフケア。 バッチフラワーセラピーミニ講座(体験 ボトルを作ります)	研修室2	資料、ボトル代と して2,000円 (事前申込必要)	バッチネットワーク・東北 Tel&Fax:022-378-0832 E-mail:murakami@asakaze.net (村上ひろこ)
7月15日(水) 11:00~13:00	アロマを使ったベビーケア。チャイルド ケア。コスメ作り。	研修室3	教材代1,500円 (事前申込必要)	Heartの会 携帯:080-1823-3146 Tel:022-222-8926 (曾根千賀子)
7月19日(日) 13:00~16:00	多様性を感じるAnego Tea Party 今回のテーマ『浴衣』 男浴衣の着付け教室つき！	研修室3	500円 (事前申込必要)	Anego Fax:022-268-4042[LC-NO.26] E-mail:anegosendai@yahoo.co.jp (太田)



◆サボセンの図書コーナーの本を紹介します。



『世界がもし100人の
村だったら 完結編』

編集:池田香代子
マガジンハウス
発行:マガジンハウス
定価:1,260円(税込)

■この本は「H 環境」に
あります。

インターネットの急速な普及があつてこそ出
来上がった物語が、この『世界がもし100人の村
だったら』なのです。
本編は5作目の完結編。子どもたちのこれか
らを考えるのがテーマです。大人であり現代に
生きる私たちが、未来の子どもたちに何を残し
ていくことができるのかを考えます。そのなか
らみえてきたのが、「自給」ということでし
た。飽食と飢餓の混在、日本人の大好きな魚を
例に取ると商業的な漁業で収穫する魚の実に四
割がいわば「外道」として海に捨てられてしま
うという事実。こんなことをしているといひよつ
として何百年か先に地球は本当に魚のいない海
になつてしまふかも知れません。
また、この本の後半には困難を物ともせず、
個人であるいは大勢の人を巻き込んで「素敵な
こと」をしている十人の活動が紹介されていま
す。この本をおしまいまで読んで気がつきまし
た。「ただ漫然と暮らしている場合ではない！
何かしなくっちゃ！」そう感じさせる一冊でし
た。(担当 三井 克)

オススメ
今月のサポ本
『世界がもし100人の
村だったら 完結編』

主催イベントのお知らせ ●○○●

<申込み> TEL 022-212-3010

日時	イベント内容	会場	料金
7月4日(土) 13:00~19:00	○仙台市市民活動サポートセンター10周年記念シンポジウム こんな仙台に住みたいな～まちを育む市民活動とコミュニティ～ 仙台のこれからの市民活動について考えるシンポジウムを開催します。会終了後、交流会(参加費500円)も開催します。	市民活動シアター (B1F)	無料 (交流会のみ500円) (事前申込必要)
●ワークショップ 7月17日~20日 ●発表会 7月20日13:00~	●サポセン・シアターを3倍面白くする企画参加企画 「環境警察2209 in 仙台」 環境をテーマにしたお芝居を、4日間のワークショップを通して作り発表します。主催:(特活)フリンジシアタープロジェクト 問合せ先 TEL&FAX 075-724-6502	市民活動シアター (B1F)	ワークショップ・発表会ともに無料 (事前申込必要)
7月28日(火) 19:00~21:00	○NPOステップアップ講座 人が入り、人が育つ環境(組織)を、組織の一人ひとりが考えることをテーマにした講座を開催します。	セミナーホール (6F)	1,000円 (事前申込必要)
8月1日(土) 13:30~15:00	○立ち上げNPOいろは塾 団体立ち上げの基礎などについて、分かりやすく学びます。	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

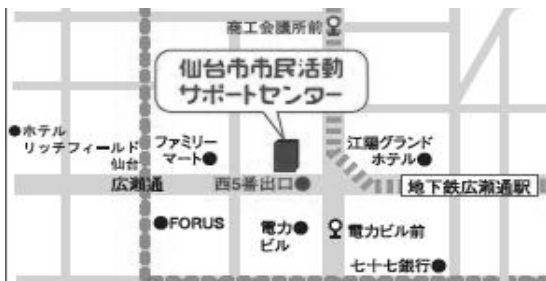
<申込み・問合せ> TEL 022-217-3983
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

日時	イベント内容	会場	料金
7月11日(土) 10:00~18:00	◆専門相談 植林、下草刈りなど森林整備や里山保全などの活動に参加し、いい汗かいてみませんか?(先着5名、相談時間1時間程度)	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)
7月18日(土) 25日(土) 13:30~16:30	◆不況の今だからこそ!45歳からの起業塾 起業の心がまえ、基礎知識、具体的なノウハウを学びます。 講師:小出宗昭さん(富士市産業支援センター センター長)	研修室5 (4F)	2回で5,000円 (事前申込必要)
7月28日(火) 13:00~20:00	◆セカンドライフ相談 「経済面」「健康」「生きがい」などの視点で、セカンドライフについてアドバイスします。 相談員:シニア元気笑学校 校長 渡辺源治さん	研修室2 (3F)	500円 (事前申込必要)

■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でお来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停]

電力ビル前、商工会議所前、広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ

■ 開館時間

○平日 午前9時~午後10時

○日曜・祝日 午前9時~午後6時

■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

7/29 8/26

■ 編集後記 ◆「ぱれっとの参考にしてください」と利用者の方から、レイアウト講座の資料をいただきました。熟読して、よりよければぱれっとになるよう精進します!(内川)

◆利用票は、皆さんからいただくサポセンへのラブレターです。(と言ったのは誰だったか?)皆さんの想いは、一方通行にならないよう「ぱれっと」誌面で取り上げていきます。(小松)

発行:仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2009年6月24日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:内川奈津子 小松州子 葛西淳子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2007年4月1日~2010年3月31日]